「キネマ旬報」2019年文化映画 ベスト・テン
ポレポレ東中野にてロングラン上映

作兵衛さんと日本を掘る

未来へ突き抜ける炭鉱力。ゴットン。

炭坑画家●山本作兵衛

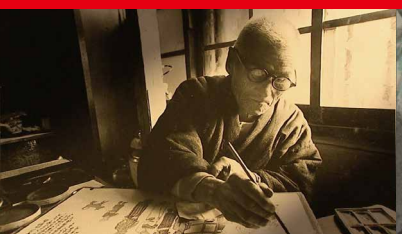
炭鉱を知ると、日本が見えてくる。

深く、暗く、暑い、地の底。そこで働いた、名もなき人々。山本作兵衛さん(1892-1984)は、福岡県の筑豊炭田に生きた、生粋の炭鉱夫だ。自らが体験してきた炭鉱の労働や生活を子や孫に伝えようと、60歳を過ぎてから絵筆を握り、2000枚とも言われる絵を残した。
明治の近代化から戦後の復興まで、エネルギーの根幹として日本の産業と生活を支えてきた石炭。作兵衛さんが描いたのは、公の記録には残らない、日本の地の底で石炭を掘り続けた人々の姿だった。2011年5月、その記録画と日記など697点が、日本で初めてユネスコ「世界の記憶」に登録された。奇しくも、東日本大震災と原発事故からわずか2ヶ月半後のことだった。
作兵衛さんは晩年、こう書き記している。「底のほうは少しも変わらなかったのではないでしょうか。日本の炭鉱は、そのまま日本という国の縮図に思われて、胸がいっぱいになります。」
作兵衛さんの絵とじっくり向き合い、その絵さながらに働いてきた元おんな坑夫の人生や、作兵衛さんと共に時代を生きた人々の証言から、日本を掘る。

プロデューサー・監督:
熊谷博子（三池　終わらない炭鉱の物語）

出演：井上冨美、井上忠俊、緒方惠美、菊畑茂久馬、森崎和江、上野朱、橋上カヤノ、渡辺為雄
朗読：青木裕子(軽井沢朗読館)　ナレーション：山川建夫
音楽：黒田京子(作曲・ピアノ)、喜多直毅(ヴァイオリン)
製作・配給：オフィス熊谷　配給協力：ポレポレ東中野
www.sakubeisan.com

推薦コメント
上野 千鶴子 (社会学者)
石炭棄民から原発棄民へ。石油棄民もあった。
日本の生命線といわれた南方戦線で、無駄死にを強いられた兵士たちだ。
日本は変わらない。原発棄民は作兵衛さんのような作品を生むだろうか?
上野英信や森崎和江のような思想を生むだろうか?
受難が生む民 衆の記憶から、わたしたちは何を学べばいいのだろう。



「作兵衛さんと日本を掘る」2018 / 日本 / 111分 / ドキュメンタリー / カラー / ステレオ / 片面2層　バリアフリー音声ガイド版　バリアフリー日本語字幕版対応

2020年 **12月20日発売** ¥20,000+税

館外への個人貸出、館内での個人視聴のみ可

著作元：オフィス熊谷
info.hirokokumagai@gmail.com

特典映像約120分　①作兵衛（作たん）事務所所蔵の撮影原画　②本編未収録のインタビュー
橋上カヤノさん（元おんな坑夫）
菊畑茂久馬さん（画家）
渡辺為雄さん（元炭鉱夫）

【販売・お問い合わせ先】　株式会社BBB　〒141-0021　東京都品川区上大崎三丁目1番1号 目黒セントラルスクエア8階
TEL:03-5793-5820 ／ FAX:03-5449-0861 http://www.business-dvd.jp/index.html